

てんて ねっと

連載76回

「親方みたいになりたい」

荻原雄太さん(有)白井建具店

今回で紹介するのは、中野市にある(有)白井建具店にお勤めの荻原雄太さんです。荻原さんは養護学校高等部3年生の時こちらでの実習を重ね、卒業と同時に就職されました。

勤続8年目を迎えられた荻原さん(25)。今ではお客様からオーダーを受けたドアの加工・仕上げ・取り付けを行っていきます。入社当時は木くずをほうき

で掃いて集める清掃、材料の運搬などが主な仕事でしたが、徐々に荻原さんも建具作りの仕事に関わるようになりました。

初めは材料の寸法や形状を間違えることもしばしばでしたが、その都度、荻原さんは「いつまでもよくよしていても仕方がないので、『すみません』としつかり謝って『もう一度やらせてください』と頼みましてもお聞きしたところ「計算間違いもあるし、失敗もあるけれど、それはみんな同じ。最初からできる人は誰もいない。ただ、必ず現場につれていき『こうなっていないとここで困るから』と実際に見せながら説明した。そうして、なぜそうしなければいけないのかが分かってくると忘れないでできる。覚えるのはゆっくりでも、一度覚えたことは忘れない。今は安心して任せられます」とおっしゃって

いました。

最後に荻原さんに今後の目標を聞いてみました。「親方みたいな職人になりたいです」とはっきりお答えになり、三木専務さんも「慌てないで覚え、できることをやっていき『自分が亡くなっても作った物は残る』この仕事のそんな楽しみを持てるような建具工に育って欲しい」と語られました。一人の社員として信頼を寄せ



三木専務(奥)と確認をする荻原さん(右)

ていただき、あこがれの職人さんたちと共に働けていることが荻原さんの活力の原点になっていると感じました。そして、白井建具店さんのような環境があれば、こんなに力を発揮し活躍できる人達がいる事を教えていただいた気がします。私自身、前を向いて頑張っていこうと思わせて頂きました。(雇用ネットワーク部会員 佐々木二花)